

心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会
合同子どもの成育環境分科会（第24期・第4回）
議事録

日時：平成30年10月24日（水）15：00～17：10

会場：日本学術会議5階 5-A（1）会議室

出席：神尾、水口、赤松、浅野（スカイプ）、内田、加野、木下、斎尾、田中、中坪、福井、三輪（記録）、湯川、仙田
小酒井（朝霞市よりオブザーバー）、五十川、下出（国土交通省よりオブザーバー）、
西村（文部科学省よりオブザーバー）、宮崎（社会福祉法人日本保育協会よりオブザーバー）

配布資料

資料1 前回（第3回）議事録

資料2 文教施設施策の変遷と学校施設整備指針（西村氏資料）

資料3 子どもの成育の場としての教育施設の課題（斎尾委員資料）

資料4 保育現場の課題（宮崎氏資料）

資料5 保育園における「かみつき」と保育制度の変化との関連

参考1 分科会委員名簿

机上配布1 第3回議事録（非公開版）

2 子どもを育む環境～互惠学習が起こる空間；発達心理学からみた「空間情報」～
（THE JOURNAL OF SURVEY 測量 2018.12「強靱」初校原稿）

当日追加配付資料 国際校庭園庭連合2018年日本大会（横浜）チラシ

議事内容

1. 前回議事録案の確認（机上配布1）

- ・前回議事内容を確認。

2. 「教育・保育施設」についての話題提供 資料2～5

1) 文教施設施策の変遷と学校施設整備指針

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課企画調整官 西村文彦氏より

2) 子どもの成育の場としての教育施設の課題 斎尾委員より

3) 保育現場の課題 社会福祉法人日本保育協会 保育科学研究所(嘱託) 宮崎祐治氏より
保育園における「かみつき」と保育制度の変化との関連 内田委員より

3. 全体討議

話題提供1) 2) 3) に関して、各観点から討議が行われた。

- ・子どもの空間の迷惑施設化、保育所に対する2つのピークの話について、2010年代という話だったが、公園とか遊び場とか子どもの声がうるさい、遊具は置くな、といった否定的なメッセージが出てきたのは1990年頃からという感覚もある。子どもの成育環境全体でもみていく必要があるのではないかと。

- ・スポーツ庁では就学前の遊びと学力との相関を示したりしている。そういう時代にどう提示をしていくのか。戦略的に、戦術をどう組み立てるか。
- ・廃校問題は大きい課題。自然体験が都市においても少なくなっている。廃校で山村留学、都市部との交流というものもある。
- ・保育所、学校は用途規制の問題規制が大きいのでは。子ども達が騒いでもよい地域につくるしかないのか、建築に内部化するのがいいのか。小中一貫や中高一貫も多くなり、まだまだ学歴社会の世の中で、小学校の高学年から受験に縛られていることも鑑みれば、施設計画だけでの議論は難しいのではないか。
- ・教員の側が新しい空間を使いこなそうというエネルギーがあるかないかは非常に大きい。先生は仕事に追われて忙しいし、工夫する余裕がない。先生方に対し、積極的に空間を使いこなすようになるシステムをつくっていかないといけない。
- ・例えば保護者と保育士とのコミュニケーションのためには、保育所のほふく室以外のエントランスやたまりとなる前の公園などがとても大事である。余剰空間の価値を伝えること、その使い方を教えるシステムがいるのではないかと常々思っている。
- ・1. こどもが育つには自然があるというだけでなく、人との繋ぎもあることが重要。2. 保育士養成校ではとてもいろいろ教えることができない。ニュージーランドでは学歴は低い、実習が充実していて、異なるタイプで6週間づつインターンとして育てている。その仕組みは素晴らしいが日本にはない。3. 子どもを隔離することは絶対によくない。遠距離スクールバスはよくない。日常的に「できる」ということが必要。
- ・教育福祉予算の使い方も再考の余地有り。
- ・空間の使い方、窓の開閉の仕方など、教員も知らない・できないことも多々あり、教員の教育も大事で、エコスクールツアーをしている際には地元の建築士会の方にも協力いただいている。学校の養成課程で地元の専門家と組めるのはいいのではないかな。
- ・保育者側の心的な配慮、保育者の労働環境も含めて提言していかないといけないと思う。その場合、この子どもへの不寛容な社会がいつまで続くのか、予測できるのか、提言では、その辺りの内容を盛り込まないとさっと読み飛ばされてしまうのではないかといった危惧も感じる。
- ・日本人が教育をどう考えるのか、教育の考え方、教育評価の問題が片付けられないと、なかなか難しいということも付言しておかないといけない。
- ・地域との関係、互惠学習・社会の作り方。不寛容な社会の是正、学校施設の在り方、地方と都市それぞれ異なる状況での自然体験などが話された。現在の子どもはひ弱になっている、強靱でレジリエンスな子どもにどう成育できるか。フランスなど諸外国では幼稚園から子ども参画が行われている。それが主体的な関わりによる持続可能な社会形成（SDGs）につながる。その辺りも提言に入れていきたい。

4. 次回と今後のスケジュールについて

第5回1月16日（水）14時～学術会議にて、身体と心の健康をテーマ開催予定。